

おれんじニュース

No 247

2010年10月号



烏帽子小屋のヘリポートからの遠望 餓鬼岳大風山等

★集会・委員会・行事関係のお知らせ★				★山行の一步は会合から★		
	10月			11月		
運営委員会	12日(火)	19:30~22:00	西諫早公民館	9日(火)	19:30~22:00	西諫早公民館
ひまわり集会	8日(金)	13:30~15:30	西諫早公民館	5日(金)	13:30~15:30	西諫早公民館
全体集会	26日(火)	19:00~22:00	西諫早公民館	23日(火)	19:00~22:00	西諫早公民館



カワラナデシコ



ママコナ



ヒゴタイ

花
年
礼
を
あ
る
く



フシグロセンノウ



ヤマジノホトギ



ワレモコウ



オオキツネノカミソリ



ヨウシュヤマゴボウ



キツネノカミソリ



10月の山行計画

部	技術研修部	ひまわり& 自然保護部	山行部
月日	1日(金)2日(土)	22日(金)	24日(日)
山名 (行事)	郡岳から五ヶ原 いっきに縦走	天山(1046.2m)	久住山群 黒岳(1587m)
地図	多良岳	古湯、小城	大船山
集合出発	JR西諫早駅 午後 8:00	JR 西諫早駅7:00	JR諫早駅裏 6:00 JR西諫早駅 6:10
帰着時間	1800頃	17:00頃	20:00頃
歩行時間	13時間	3.5時間程度	6.5時間程度
難易度	中級健脚	初心者	健脚むき
交通手段	マイカー	マイカー	マイクロバス
宿泊施設	郡岳登山口にテント泊	日帰り	日帰り
温泉	なし	温泉有り	なし
参加費	1500円	2000円程度	5,000円
申込期限		満員になりしだい	満員になりしだい
集約	岩田	江崎	田中
備考	これからの山にむけて 体力をつけるその3 1日の夕食は済ませて おく。2日の 朝食と昼食、行動食 各自持参	広大な草原の山、 雄大な展望も魅力	遠望すると山全体が黒 ずんで見えることで黒岳 九重山群のなかで一番 東に位置する。
感想提出	10/12(火)まで	11/3(水)まで	11/6(土)まで

技術研修部より

- 10月23日(土) セルPRESキューのところですが都合により中止にいたします。
 10月28日(木) 岩登り (JR西諫早駅9:00集合)
- 11月25日(木) 岩登り(JR西諫早駅9:00集合)
 11月27日(土) セルPRESキュー(JR西諫早駅9:30集合)



11月の山行計画

部	技術研修部	山行部	ひまわり部
月 日	6日(土)7日(日)	14日(日)	26日(金)
山名 (行事)	釈迦ヶ岳(830.6m) 綾大吊り橋 大森岳	黒髪山(516m)	金山(967.2m)
地 図	岩崎・大森岳	有田	脊振山
集 合 時 間	JR諫早駅裏 6:00 JR西諫早駅 6:10	JR諫早駅裏 7:00 JR西諫早駅 7:10	西諫早駅前 7:00
帰 着 時 間	20:00 時	18:00 頃	17:00
歩 行 時 間	一日 5 時間程度	4 時間程度	2.5 時間
難 易 度	初心者向き	初心者向き	初心者向き
交 通 手 段	マイクロバス	マイクロバス	マイカー
宿 泊 施 設	温泉宿	日帰り	日帰り
温 泉	有り	有り	有り
参 加 費	15000 円	4000 円	2500 円
申し込み期限	満員になりしだい	満員になりしだい	満員になり次第
集 約	佐原	田中	江崎
備 考	日本一の照葉樹林	紅葉観賞登山	脚気地蔵のお堂で 足痛を治しに行こう
感 想 提 出	11/13	11/20	12/4

日本勤労者山岳連盟の労山新特別基金制度のご案内

「労山新特別基金」へ必ず加入しよう！

現在加入している人は10月が切り替えとなっています。

「労山新特別基金」は労山会員であれば、誰でもいつでも簡単に加入できます。

労山会員の共済制度で、営利を目的としていませんので、加入者が増えれば、給付額の倍率もあがります。海外登山、急病なども補償します。

(払込金と補償)

個人1口 1,000 円 (10 口まで任意加入できます)

団体1口 2,000 円 (5口まで任意加入できます)

(有効期間) 1年間

(補償内容)(個人加入の場合)

○死亡・障害に登録金額の200倍まで補償、

○救助・捜索に登録金額の300倍補償(加入初年度)

(救助・捜索給付は加入2年目から、継続1年あたり10倍ずつ加算し、
最高400倍まで補償されます。)

○入院・事故発生日より1年以内。3日～210日の入院に対して1日目より入院実数にて補償

○通院・事故発生日より3日～50日の通院に対し1日目より通院実数にて補償

☆ 新規加入及び継続は10月末までです。詳しくは基金担当篠原まで☆



8月・9月の山行報告

8月20日(金)

雷山 (955m)

(参加者) 小山 佐藤 佐原 林 中村 林田 金丸 (計7名)

(行程) 西諫早駅前7:00発～川登SA～佐賀大和IC8:20～雷山登山口9:20～雷山スキー場10:40～見晴らし場へ移動 昼食11:10～11:40発～往路下山～登山口12:40～吉村家見学(重要文化財)～古湯温泉～佐賀大和IC15:40～川登SA～諫早IC着16:40

(感想)

夏山は我が家に居るより涼しい!

雷山(らいざん)は福岡県と佐賀県の境の山で頂上は福岡県側だそうです。

小山さんのワゴン車で西諫早駅を朝7:00に出発。車は快調に走り続けました。車中では楽しいおしゃべり。そして差し入れの冷たい、ぶどうを早々に頂きました。(美味しかった!)



車が高速(佐賀IC)を降りてから、大きな川(嘉瀬川)を横目に、数十分走ると広大な景色が広がりました。そこは嘉瀬川ダム建設中の場所でした。皆さん車から降り見学。小山さんよりダム建設についての説明を受けました。数年後には、広大なダムが、立派に完成し名所の一つになることでしょう。しかし、自然を愛する気持ちもあり、建設についての複雑な思いがしました。

車は登山口へ9:20に到着。準備体操を済ませ、さあ～出発です。山に入ると、杉林の続く急な登り道で、またこのところの雨で土の乾きが悪く、滑らないように気をつけながら

…ゆっくりペースで休み休み登って行きました。その先は竹笹が茂った細い道で足場を確認しながら登りました。(小山さんの話によると偵察に来られた時より道が出来ていたとの事、笹を刈ってくださった方に感謝です。) その細い道を過ぎると、また急な登りが続いてゆっくり休み休みです。そこは日当たりが良いのか土は乾いていたので楽でした。登り始めて一時間程で、電波塔が立っている所に出ました。そこは、かつての雷山スキー場で近くには山小屋も残っていました。今や、そこは広～い草原で、草の緑がまぶしくて、とても気持ち良かったです。草原には可愛い花もいっぱいでした。ゲンノショウコ・ツユクサ・ミズヒキ・ギボウシ・アキノキリンソウなどが目を楽しませてくれました。草原の目の前には、雷山が、どっしりとそびえ立っていました。そこで雷山をバックに皆さん笑顔で記念撮影。ここで、すでに皆さん大満足。雷山まで後 30 分程の行程でしたが、登頂は今回は断念。…そこから少し移動して下に広がる景色を見ながら、早めの昼食～11:40～往路を下山。登山口着 12:40。帰路の途中で淀姫神社と旧家の吉村家住宅(重要文化財)を見学しました。昔をしのばせる藁ぶき屋根の家屋を見ることができました。帰り道、古湯温泉で、ゆっくり汗を流し帰路に…諫早 16:40 着でした。楽しい一日をありがとうございました。小山さん、運転お疲れ様でした。(金丸直美)

2010年8月22日(日) 晴れ時々曇り

セルフレスキュー

<参加者> 川原 山下 松園 田中静 田村 計5名

<行程> JR西諫早駅 9:30→大渡橋 10:40→小松尾公園 11:10→多良線広域林道 11:30→小松尾公園 12:00(昼食)～セルフレスキュー(渡渉訓練)～大渡橋 14:20 発→諫早帰着 15:10

<感想>

今日のセルフレスキューは、最近沢での事故が報道されたこともあり、渡渉訓練をすることになった。沢登りの準備はしていなかったが、やれる範囲でやろうということで小松尾公園に行く事になる。轟の滝から金泉寺に登るルート沿いにあり、登山客以外はあまり訪れることのない場所である。大渡橋を過ぎて 100mばかり進むと、多良・金泉寺方面と小松尾公園の2つの標識があり、左の小松尾公園ルートに入る。沢に下るとすぐ結構な幅の溪流を横切らなければならない。濡れることを気にしなければざぶざぶ渡れるが、先が長いので飛び石を探りながら用心して渡る。ここから先は溪流沿いに登っていけばよい。

目印テープは少ないが、踏み後らしき道があるので迷うことはあまりない。溪流のすぐ脇の岩盤は滑りやすいので注意して進んでいくと、30分くらいで小松尾公園らしき場所に出た。清流が変化に富んだ岩場を流れ下っている。風も心地よい。以前、この少し先までは自主山行で来たこと



があったが、この道を登れば広域林道に出るだろうと推測した場所で引き返していた。山下女史は広域林道から途中まで下ったことがあるとのこと。ここまで来たらお互いルートを確認せねばなるまい。川原さんの多良岳研究登山に急遽メニューを変更してそのままずんずん登って行くと、公園から 20 分くらいで広域林道に出た。

長崎の登山グループの山行にはこのルートは度々登場しているが、オレンジで来たのは初めてである。ルート確認に気を良くして、今度はすぐ横の石楠花公園から小松尾公園に下ってみることにする。これは登って来るとき左手に見えていた尾根筋のようである。

こちらは途中から道が亡くなったが、見当をつけて下っていくと沢の近くで登ってきた道に合流した。オレンジで登る時はこのルートは避けた方が良さそうである。

小松尾公園に帰り着いたところで 12 時になったので、景色の良い岩場に陣取って昼食にする。渡渉訓練はここから少し下った沢で実施することにした。

大きな岩 2 つで支点を取り、川下に向かって斜めにロープを張り対岸の木に結ぶ。

渡渉は真横ではなく流れに逆らわないよう斜めに渡っていくのだそうだ。また、対岸に必ず行き着けるようカラビナを固定してロープの中央に引き戻されないやり方を教わる。

渡るときはロープの川上側に立つこともポイントである。

水深が脛から太ももくらいまでの場所で実施したので、本当はもっと腰くらいのところでやらないと訓練にならないし、臨場感も出ないのかも知れない。水深が胸くらいになると、流される危険が高いため渡渉はしないそうだ。最後の一人をサポートしながら渡渉させる訓練を実施して本日のメニューは終了。大渡橋までは二人一組のアンザイレンで下った。不十分な装備にも関わらずご指導いただいた川原さん有難うございました。(松園)

8月29日(日)

花牟礼山(1170.3m)

〈参加者〉篠原(C L)、田中静(S L)、川原(P L)、松園、田村、林田、山下、鎗水(P L)
中野、川内 計 10 名

〈行程〉諫早駅裏ロータリー 6:00~九重インター 8:38~花牟礼山登山口 9:30—牧場
作業小屋→車道終点→牧場道終点 11:30→展望台 11:45→山頂 12:10—(昼
飯)→登山口 14:15~やまなみ牧場、まきばの温泉館 14:50—西諫早駅 18:
50~諫早駅裏ロータリー~19:04

〈感想〉

天気が気になったが、久しぶりの山行であり今回の山は九重山郡の一つで魅力的な山名の花牟礼山—ハナムレヤマで心を弾ませながら参加した。実は今日は崩平山—クエンヒラヤマにも登るよう計画されていたが、時間的に無理であるようなので花牟礼山一座に急遽変更になった。



登山口でストレッチ体操の後歩き始めたが、しばらく行くと道に新、旧の牛の糞があるので「頭注意」、「足元注意」ならぬ「糞注意!」が出て糞を踏まないように一時も気を抜けない珍しい体験をした。それから三頭の黒い牛が牧場で草を食べているのも見た。

途中、小雨が降り出し雨具を着た。もちろん視界が利かず回りの景色は見えない。

牧場道終点を過ぎ急坂になるにつれ真っ黒い火山灰のヌカルミ道は滑りやすいので道の両脇の笹に捕まり必死に登っていると、さすが人気の山で擦れ違う人も結構いたが長崎「ミランの会」の人から「これからもっと険しくなるから頑張っ！」と励まされた。だんだんに笹と萱が生い茂り両手で掻き分けないと道は見えない。背が低い私は笹と萱に隠れてしまう所も多い。前を歩いていたHさんが突然消えたので道の窪みに入り込んだのだと思っていたら、足が滑って止まらないとのこと。私も充分注意していたが同じ滑りをして次の人に止めてもらった。ヌカルミ道と生い茂った笹と萱に悪戦苦闘する私たちに元気を与えてくれたのが、花牟礼山の花である。



ママコナ、シャジン、ゲンノショウコウ、ワレモコウ等、等。初めて見た花はオレンジ色のフシグロセンノウと紫色の丸い玉の花ヒゴタイでそれぞれ美しかった。

花牟礼山山頂は草台地で明神を祀ってあった。本来なら由布岳や祖母、傾の山々などの絶景が見られたはずだが今回は残念でした。早々に昼飯を済ませ下山にかかった。ひたすら笹と萱を

両手でしっかり握り滑らないように注意しながら下山した。

牧場の糞のある道でふと前方を見ると、登る時見かけた三頭の黒い牛が自分達だけでこちらに歩いてくるところで、前を歩いていた人は道の片側により川原さんが何か牛と会話しているところが見受けられた。私は牛が角で襲ってくる場面を想像して生きた心地がしなくて、祈るようにして二頭の牛が通り過ぎるのを待った。最後の一头が前を向いて歩き始めたと思った途端すぐ後向いて、なかなか通り過ぎてくれなかったが多数の私達に恐れをなしたらしい。川原さんが牛とどんな会話をしたか聞いたところ「オーラーユー」と言う牛への褒め言葉を言ったとのこと。川原さんの博学に脱帽である。

火山灰のヌカルミ道での皆さんの汚れ具合は、数年前雨の平治岳で雨具のズボンの内股まで泥が跳ね

帰りのバスの中で「泥んこ大賞」を開いたあの時に比べれば「たいしたことは無い」と言えそうだ。

ゆったりと温泉に入り、少人数のため割り増し会費にもかかわらず自分調達の飲み物、つまみでバスの中は賑わい今日も楽しい山行でした。

皆さんお疲れ様でした。ピンチヒッターのリーダー篠原さんお世話様でした。

(川内 美智子 記)

～日本最大の秘境—北アルプスの最奥の地～

野口五郎岳 赤牛岳 雲の平～黒部源流最初の一滴を汲む

9月3日(金)～9月9日(木)

(参加者) 川原、岩田、鎗水、福岡、森田、松園、田中(静)、山下

2010年9月3日(金) 出発

(行程) 諫早駅発 6:21—信濃大町着 15:02—七倉山荘着
15:40

(感想)

野口五郎岳、水晶岳、赤牛岳は北アルプスの奥の奥に在って、この山塊の核心部をなしている。

ここに到るには体力、技術、知識など登山者としての総合力が試される。そのどっしりとした大きな山体、味わい深い風格など、玄人向きの山である。

計画の中の、水晶小屋から赤牛岳の往復は起伏の多いガレ場の連続で、気の抜けない稜線上の道であり、健脚でも7時間を要する。

常時吹いている強風のため、這松も貧弱で、雷でもくれば逃げ場もない。早朝に発って雷雲の発生が顕著になる正午迄には小屋に戻りたいところである。

9月3日朝6時前に(岩田、森田)両氏を除き6名が諫早駅に集まった。

6時21分、田村さんに見送られて出発。その後、博多、名古屋、松本と乗り換えて信濃。

すでに予約してたジャンボタクシーも待機しており七倉温泉へと向かう。久々に見る安曇野の風景である。運転手さんも話し好きで、この地方の事を色々説明しながら山麓へと向かう。

道の脇の畑にはリンゴが色づき始めていた。

車が大町ダムの急な坂道を登っているとき、子供が背中に乗ってる龍の銅像が見えた。

山下さんの話では「龍の子太郎」伝説の湖なのだそうだ。そこから間もなく七倉山荘に着いた。

山荘は温泉宿であり、ここの調理人は元水晶小屋の仙人と云われた桑原さんである。

久しぶりの出会いで、酒を酌み交わし、仙人得意のロシア語での民謡を聞いた。

(川原)

9月4日(土)

(行程) 七倉山荘タクシー6:30—登山口 6:43—烏帽子小屋着 11:40—同小屋発 13:00—烏帽子岳頂上 13:50—烏帽子小屋着 14:55

(感想)

5時に起床。川原リーダーの友人であり、七倉山荘の調理人でもある桑原氏が料理してくれた朝食を美味しくいただき、昨夜の桑原氏の美しい歌声の余韻を残し、同氏と別れて七倉山荘を6時半に出発。



タクシーで烏帽子岳の登山口である高瀬ダムの堰堤に移動したが大きな岩の積み上げとコンクリートで建設されたダムの大きさにはびっくりしたところである。

登山口を6時43分に出発。堰堤には所どころ大きなアザミが咲いており、九州のアザミよりは一回り大きく感じられた。

堰堤からダムの付け出しのトンネルを過ぎると、大きな川原に出たが土木工事の様子(?)で水が流れてなく吊り橋が架けられていた。渡りきったところで原野の中に

2~3張りのテントを見る。おそらく烏帽子岳を目指す登山者であろう。・・・



原野を過ぎて樹林帯に入った所で、先頭はS L福岡さんが立ち、後尾は私と川原リーダーが就いた。樹林帯で日差しは幾分免がれたものの、傾斜が激しく急登である。全員が8~13Kgのザックを担いでゆっくり歩くも、すぐに息が荒々しくなって来た。

なかなか平坦な道はない。計画では烏帽子小屋まで7時間の行程である。川原リーダーに聞くと烏帽子小屋・烏帽子岳までこの調子だと言う。

7合目を過ぎた所で私の右足首の関節とふくらはぎに痛みが走った。大丈夫かなと思って歩くもペースが落ち、皆に着いて行けなくなった。

この原因を私は良く承知していた。長崎を出発する3日前に出勤途中歩いていて右足首の軽い捻挫を起こし違和感があったのである。七倉山荘を出発する前に大事を取りエアサロンパスを振りかけ、森田さんにもその事を話して出発したのであるが、現実のものとなった。川原リーダーが筋肉痛予防のアミノ酸を差し出したので直ぐに飲んで歩いてみたが、なかなか痛みが取れず、川原リーダーが先を歩いてた松園さんへ連絡。松園さんが早速筋肉痛予防の薬とテーピングによる応急処置をしてくれた。



松園さんに感謝し痛みを気にしながらゆっくり歩く。川原リーダーもサポートしてくれるとともに、時間が経つにつれて徐々に痛みがやわらいで来た。

皆に少し遅れて11時40分烏帽子小屋に到着しサポートする。計画より1時間50分も早い到着であったが、さすがに皆も疲れた様子であった。

小屋で昼食を取りながら一休みし、13時烏帽子岳頂上に向けて出発。30分程歩くと烏帽子岳の鋭く尖った岩峰がくっきりと見えた。岩場を周りこむように進むと岩峰(頂上)の真下に出た。岸壁に沿って少しロッククライミングしなければならない。岩と鎖を握り3~4m直登すると、次は岸壁に打たれた3~4mの鎖を握りながらカニの横ばいで歩く。川原リーダーが先頭に立ち、一人々を慎重にサポートする。最後に私も右足の不安を抱えながら奮起して登る。そこをクリアしたら頂上の一枚岩で一人しか立てない。川原リーダーがザイルをかけ、一枚岩の側まで一人ずつ交替で引き上げ、最後に私が立ったのは13時50分であった。

頂上からの展望は良く、アルプスの峰々がすばらしかったが、反対側は絶壁で一步間違えると「あの世行きだ・・・」別の平らな岩場で記念写真を撮ると、早々に下山し小屋に到着は14時55分であった。

夕食まで時間があるので、松園さんが私の足の痛みを心配して、更に指圧治療を施してくれた。まるで専門師のようだ！関節・筋肉痛がほぐれるとともに体が少し軽くなった。

明日の縦走は大丈夫かも？松園さんに感謝々である・・・ (岩田記)

9月5日(日) 晴れ

<行程> 烏帽子小屋発 5:50→野口五郎小屋経由→8:50 野口五郎岳着・同発 9:50→11:40 東沢乗越着→12:40 水晶小屋着 (6時間50分)

<感想>

元オレンジの田中良乗さんに似た、物静かな小屋の主に見送られて出発。

小屋の前の細道を左に進んでいくとヘリポートとキャンプ場があり、これを抜けると野





口五郎岳へのルートが始まる。天気は快晴、空気も美味しい。

小一時間で三ツ岳の入り口にさしかかる。頂きへの展望コースと、巻き道の花畑コースに分かれるらしい。時間短縮のため花畑コースをとる。8時過ぎには野口五郎小屋に着き、水分補給やトイレ休憩をして再出発。眼前には大きな山塊の野口五郎岳が待っている。小屋から30分余で山頂に着いた。登る途中、前方に槍ヶ岳が見え出したが、頂上に着くと北アルプスの峰々がはるか先まで連

なって見える。大パノラマである。

槍ヶ岳の手前に赤茶けた崩落の激しい山肌が広がり、不気味な様相を呈している。硫黄岳と教えてもらう。火山ガス等も吹き出ているので、この山の稜線は不人気らしい。写真を撮ったり、眺望を楽しんだりした後次の目的地水晶小屋を目指す。野口五郎岳から30分ばかりで真砂岳の下にさしかかった。この山は見上げるだけで素通りする登山者が多いらしいが、「時間に余裕があるので登りましょう」との川原さんの掛け声で、ザックを置いて登る。10分で登った山頂は狭かったが眺望は素晴らしい。野口五郎岳にわずか62m低いだけなのに、随分邪険な扱いをされている山である。「これが百名山なら我々は大したものばい」と言いながら元の道に戻る。昼前には水晶小屋への急登が始まる東沢乗越に着いた。この一帯は赤岳と呼ばれ、切り立ったやせ尾根はいつの間にか赤い岩盤に変わっていた。突風や暴風雨の時は這いつくばって登らなければならない場所である。良天に恵まれた幸運に感謝する。下山者との離合場所を選びながら、集中力を切らさないよう登っていくと、午後1時前に水晶小屋に到着した。



この小屋の若女将は10年ばかり前、川原さんと一緒に働いていた仲間とのこと。現在は伊藤正一氏の長男と結婚され、弘也君という1歳半の可愛い坊やがいた。

夕食はカレーに味噌汁とフルーツ寒天がついて美味しかった。

夜はうなぎの寝床のような部屋に布団が5組しかない。二人で一つの布団で寝てくれとのこと。8人パーティなので男女1組のペアが出来る予定だったが、幸か不幸か宿泊者のキャンセルで、女性陣は2つの布団に3人で寝ることができた。(松園記)

9月6日(月) 山行のハイライト(水晶岳、赤牛岳、黒部源流、雲ノ平)

(行程) 水晶小屋発 4:47～水晶岳着 5:30～赤牛岳着 8:05/発 8:25～温泉沢ノ頭着 10:13/発 10:20～水晶岳着 11:28～水晶小屋着 12:03/発 13:00～岩苔乗越着(黒部源流)13:45/発 14:13～祖父岳着 15:05/発 15:10～雲ノ平山荘着 16:30

(感想)

所要時間(休憩を含め約12時間)と言い、通過ポイントと言い本山行のハイライトである。

未だ明けやらぬ赤岳の水晶小屋をヘッドランプを頼りに出発、途中朝日に輝き始めた北アルプスの名だたる名峰を眺めながら、ほどなく水晶



岳に到着。短時間ながら、岩峰につき登り難さと注意を要する。水晶は見当たらず。



更に100mほどのアップダウンを岩場や開けた道などを辿り、また途中雲ノ平などを遠望しながら本山行の第一の目的である赤牛岳に到着。昨日登った烏帽子岳、烏帽子小屋、野口五郎岳が東側の深い谷に隔てられた稜線に見える。また北には立山、後立山・黒部ダム、西には雄大な薬師岳、黒部五郎、笠が岳と続く。腹ごしらえ後、同一ルートを進んで水晶小屋へ戻るもアップダウンや岩場が多く、多少疲れを覚えた。

一休みして、次に黒部源流を目指す。一番の楽しみである。

岩苔乗越にリュックを置き、南側に数十メートル下ると岩肌から水が滲み出し小さな溜りを作っている。冷たくうまい！これが黒部川の一滴である。ペットボトルに詰めて家に持ち帰ったが、全て女房に飲まれてしまった。

なお、岩苔乗越には川原さんが立てた祖父岳方向を示す道標が立っていたが、文字は消えて見えず、ボールペンでなぞった。



本日最後の一山である祖父岳を超え、後は一気に雲ノ平まで下ったが、この下りがまたまた岩ごろごろで下り難く苦労した。雲ノ平も期待した所であるが時間的に遅くなりガスで周囲の山は見えず、ちょっと残念であった。明日に期待しよう。雲ノ平山荘は新装オープンになったばかりで奇麗であった。
(鎗水記)

9月7日(火) 雲の平山荘～太郎平小屋

(行程) 雲の平山荘発 7:00—祖母岳(ばあだけ) 7:13—薬師沢小屋着 10:00—太郎平小屋着 13:00

(感想)

ガスの中の雲の平、皆元気に朝食。

昨日の強行軍の疲れも一晩あけて回復してるようです。朝食後、岩田さんは事情により早く出発。本日中に折立まで行き、順調であれば富山経由で名古屋からの夜の高速バスに乗るとのこと。(すごい強行軍です。)それで今日からは7名での山行です。雲の平山荘の前で全員写真を取り、皆元気に午前7:00 出発。時間に余裕があったので、川原さんが予定に無かった祖母岳に急に登ろうと言われ皆ビックリ、実は祖母岳は雲の平の中の小高い丘でした。



山荘から木道を歩き午前7:13 登頂。写真を撮り、アラスカ庭園の中を散策しながら進んで行くと木道も終わり、何やら岩ゴロゴロの急坂に入る。途中Yさん・Tさん・Yさんの3名が一度にスリップして尻もちをついたが怪我も無く、約1.5時間下り、最後の長い梯子を降りたら10:00 ごろ薬師沢小屋に到着。



薬師沢小屋は黒部川沿いの大変景観がよく涼しい所で、長く居たかったが冷たい水を汲み早々に出発。

少し登ると、河童に騙されるという【カベツケガ原】を通り、木陰で軽めに昼食。

所々木道のある登りになり、途中清流に架かる3箇所の橋（丈夫な）を渡りながら高度を上げて行くと最後の川辺に岩魚を数匹発見し、見学も兼ねてここで皆一斉に

休憩しようと。鎗水さんが岩魚をしっかりと写真に撮りました。今度来るときは釣竿を持ってきて釣ってみたいと声がでましたが、国立公園内にて写真を撮るのはいいですが、魚を取るのは禁止です。念のため。

稜線までの最後の登りには3桁の数字が地面に書いてあり、登るにしたがって少しずつ減っていくようにしてありました。もう少しで稜線に出るという所で、雨がポツリ。本格的に降ってきそうとのことで、今回初めて雨具を着ることに。でも数分で止み、暑いので脱ぎ20分ほど歩くとガスの中、本日の宿泊地【太郎平小屋】に13:00到着。

時間も早かったので男性軍はビールで乾杯。女性軍はすぐ近く（20分ほど）の太郎山に登頂。下山してからすぐに大雨になり、危機一髪少し遅れていればびしょ濡れになるところでした。

ここは稜線でも携帯が通じなく、明日のタクシーの予約（¥100）を小屋にお願いし、夕食まで時間があつたので部屋にて一杯やりながら今日の反省会。夕食後の確認で台風が北陸方面に向かっているとの事で、明日は本格的に雨対策をして早めに折立まで下山しようと決め就寝。

初めての北アルプス山行で体力度5?のコースに参加し、変化（急登・岩登り・大岩歩き・急坂等）のあるコース、また景観は360°どこを見ても特徴のある山々（立山・後立山・槍穂等）で大変満喫しました。奥深く中々1人では行けない所ばかりで、参加者全員の方に感謝です。（森田芳秋）

9月8日（水）太郎平小屋～白樺ホテル

（行程）太郎平小屋発 6:05－折立着 8:35－亀谷温泉白樺ハイツ着 11:50

（感想） 5:00起床。台風9号の接近で昨夜は雨風が強かったが薬を飲んだので、あまり気にならず眠れた。6:05太郎平小屋出発。昨晚程ではないが雨と風がある。今日は折立までの下り。暫くは木道に行く。その後は石ころがあつたり、木の根が這つたりと歩きにくい。先頭の川原さんのスピードに、雨の為回りの景色を楽しむことも出来ず、ただ黙々とついて下る。



川原さんが時折振り返って待って下さる。樹木帯の急登を下る頃には小降りになった。折立の登山口の手前に、S38年愛知大生13名の遭難で建てられた十三塔があり、我が子を失った親の心境を思い手を合わせる。

8:35折立着。予定より早く2時間半で着いた。ジャンボタクシーの予約まで時間があつたので早目のお弁当を食べ、雨宿りして待つ。



11:50 亀谷温泉白樺ハイツ着。チェックインまでの時間、まずはお風呂に入り、汗を流す。4日ぶりのお風呂はとても気持ちよく疲れがとれた。夕食はご馳走があり、乾杯のビールがいつもより美味しく思われた(笑)

明日はアルプスと別れて帰るのみ。体力も技術もないのに行ってみたいという気持ちだけで参加申し込みをし、正直不安の毎日でした。でも皆さんのおかげで赤牛岳まで縦走でき、素晴らしい眺望に感嘆できました。本当に有難うございました。これからも頑張りますので宜しくお願いします。(うっかり静べえこと 田中静香記)

9月9日(木) 最終日

(行程) 白樺ハイツ 8:20—諫早駅着 18:04

(感想)

窓を開けると雨もあがり、気持ちの良い朝を迎えました。今日は諫早に帰る日、少し淋しい気がします。

白樺ハイツに一泊でき5日ぶりに風呂にも入れたし、ふかふかの布団にも寝る事が出来たので山の疲れもとんでしまいました。

朝食を7時に摂り、8時20分にハイツの送迎バスで有峰口まで送ってもらいました。

有峰口(富山地方鉄道駅)の駅舎は古い木造作りでいまにも崩れそうでした。

そのレトロチックな駅舎を皆、気に入る前でみんなで記念撮影をしました。

やがて電車が入ってきました。2両編成の後乗り、前降りの、のどかな電車でした。もちろんトイレもついていません。のんびり景色をながめながら山の話で盛り上がり、1時間程で富山駅に到着。ここで、森田さんとお別れです。高速バスで名古屋まで行きそこからは飛行機で長崎に帰るそうです。私達も時間があまりないので急いでホームに向かいサンダーバード18号に乗り込みます。この電車は金沢、福井、京都を通って新大阪に着きます。

弁当、ビールを買い昼食タイムとします。車両が新しく内装も綺麗でサンダーバードと云う名前がおしゃれですね。昔のテレビ番組を思い出します。初めて乗るのでいい記念になりました。



新大阪からの、のぞみ29号は3列シートを向かい合わせにし、今回山行のムードメーカー山下さんの話で盛り上がりました。あっという間に博多でかもめに乗り換え諫早駅に18:06無事到着しました。駅に坂口さん、田村さんが出迎えてくれました。ありがとうございました。うれしかったです。

最後に4言。

- 1、以前、水晶岳に登れなかったのが今回望みが叶って良かった。
 - 2、北アルプスの山々を見る事が出来、感動した。
 - 3、普通、行けないような赤牛岳に登れて感激した。
 - 4、高瀬ダム～太郎平小屋～折立～元気で縦走できて満足している。
- みなさん、お疲れ様でした。楽しかったです。(福岡記)



北アルプスの花たち

パートII



ナナカマドの赤い実



キノガサソウの花の終り



タカネスミレ



トウヤクリンドウ



ウサギギク



ウラシマツツジ



ミソガワソウ



クロウスゴ



クロマメノキ



ミヤマリンドウ



イワギキョウ



チングルマの実(稚児車)



コマクサ



ナナカマドの
赤い実
野口五郎岳から
水晶小屋への
尾根道にて



アルプスの3代急登と言われるブナ立尾根からの遠望

おれんじニュースNo247	
発行元	オレンジハイキングクラブ
発行責任者	福岡正廣
編集責任者 及び 原稿送付先	山下ちず子
発行年月日	2010.9.28
財政担当	
郵便振替講座	
ホームページ	http://orangehikingclub.web.fc2.com/



川原さんが立てた道標